「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Spring 2014

Vol.5

Dogushi Vol.5 2014年4月発行 発行:「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作:NPO法人 いいだ人形劇センター 〒395-0044 長野県飯田市本町1-2 TEL050-3583-3594 FAX0265-52-3594 E-mail:iida-puppet-c@mis.janis.or.jp

特集

人形劇のまち飯田から〝わくわく〟を発信！

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

新年度会員募集中!!

NPO法人いいだ人形劇センターは、センターの目的と活動にご理解、ご賛同いただき、活動を支援していただける平成26年度の会員を募集しています。

正会員・賛助会員（いずれも個人・団体）にお申込みいただきますと会員特典として、季刊情報誌『Dogushi』や公演・イベントなどのお知らせを随時配信させていただくほか、公演チケットの割引販売、会員相互のネットワークを構成します。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

年会費

正 会 員 5,000円
（企画を提案できます。総会での議決権あり）

賛助会員 1口2,000円
（活動を財政面から支えていただきます）

●問合せ:いいだ人形劇センター
●TEL:050-3583-3594
●URL:iidapapecen.com
「入会案内」メールフォームからお申込みいただけます。

Dogushi

並木 さんぽ

いいだ人形劇センターは2年目の春を迎えました。この一年、どれだけの情報発信ができたでしょうか。「『Dogushi』楽しみにしているよ」「さまざまな体験ができるワークショップをやってほしい」というご意見をいただく一方、同センターをご存じない方もいらっしゃいます。千里の道も一歩から。一人でも多くの方に存在を知っていただき、イベントにご参加いただけるよう努力してまいります。次号は7月発行予定です。（帆）

表紙イラスト:井原千代子

View of IIDA

世界のすぐれた人形劇芸術を多くの方に紹介する公演（主催:いいだ人形劇センター・飯田文化会館）が3月8日・9日の二日間、飯田人形劇場で行われました。作品はフランスの劇団カンパニー・アによる「みにいくアヒルの子」。アコーディオンの音色とともに繰り広げられる舞台は人形劇という枠にはまらない、独自の世界観がありました。主演女優のドロテ・セソンバさんは公演後、「多くの方と素晴らしい時間を共有できた」と感謝の気持ちを伝えました。

人形劇 わかる!! 用語

『明転』（めいてん・あかりてん）

「場面転換」のひとつ「暗転」については前回、説明をしました。

一方の「明転」は、明るい中、転換そのものをお客さまに見せるものです。しかし、そこは舞台ですので、ただ単に転換すればいいというものではありません。観客を飽きさせない工夫が必要ですし、できれば意味のあることが求められます。

舞台装置や俳優、人形を動かすことで、場所の移動を表す。回り舞台を使って回想シーンや同時に別の場所で起こっていることを見せる。舞台装置が美しく変化する様子を見て、楽しんでもらう。こういった様々な工夫が凝らされてこそ活きるのが、明転です。

小さな子どもたちのために真っ暗になるのを避ける意味もあり、人形劇では暗転よりも明転を使うことが多いですね。

（人形芝居燕屋 くすのき燕）

特集

人形劇のまち飯田から〝わくわく〟を発信！

人形劇公演はもちろん、人形劇制作や人形操作、美術制作、こま撮りアニメーションなどのワークショップ、季刊情報誌の発行など、平成26年度もいいだ人形劇センターはさまざまな〝わくわく〟を発信します。ぜひ予定に入れてご参加ください。

いいだ人形劇センター年間イベントスケジュール

4月

●人形アニメーションの作業場―体験コーナー（有料）
4月27日(日)10時～16時 川本人形美術館
こま撮りアニメを簡単に撮影できるマシン「ランチボックス」を使い、こま撮りアニメの撮影体験。

●人形劇ワークショップ 4月～1月
演出家・くすのき燕、人形美術家・吉澤亜由美を講師に迎え、2015年1月の「人魚姫」初演に向けて20人が取り組む。

●「こまねこ」上映会
5月3日(祝)～6日(祝) 川本人形美術館
上映作品／こまねこのおるすばん、By Your Side

●「お面をつくるワークショップ」作品展
5月9日(金)～6月6日(金) 飯田信金本店ギャラリー
昨年6月に実施した「お面をつくるワークショップ」の講師・林由未さん(チェコ在住の舞台美術家)や参加者の作品を展示。

●人形劇を上演したい人のための人形劇公演
5月10日(土) 11時～飯田市松尾公民館ホール
出演／人形劇団むすび座「ちっともコリン君！」
料金／大人800円、子ども500円

●人形劇初級講座（有料） 5月中旬～7月
初心者向けに5月～7月の毎週水曜昼間に行う講座(全12回)。8月のいいだ人形劇フェスタでの上演を目指す。

●人形劇の基礎レッスン（有料） 5月下旬～7月
ましゅ&Keiを講師に迎えインプロワークショップ(コミュニケーションと表現)。

●人形劇の相談所 5月下旬～6月下旬、9月以降随時
いいだ人形劇フェスタやその他の上演に向けて人形劇制作に取り組んでいる方のためによろず相談所を開設。

●海外の人形劇を知る講座（有料）
6月7日(土) 川本人形美術館
チェコ国立芸術アカデミーで学んだ青木尚子氏を招きチェコの演劇・人形劇の現場についてのトークショーを開催。

●三人遣いワークショップ
6月7日(土) 川本人形美術館下
今田人形座を講師に伝統人形芝居の操演方法「三人遣い」を体験。

●人形劇in竹宵まつり
6月7日(土) 川本人形美術館下
「竹宵まつり―キャンドルナイト」開催にあわせ、伝統人形芝居を和ろうそくの灯りで観劇。出演／今田人形座「伊達娘恋緋鹿子」

●森のかみしばい劇場（有料）
7月6日(日) かざこし子どもの森公園
飯田下伊那の紙芝居・読み聞かせグループによるジョイント公演。

●いいだ人形劇フェスタ「プレフェスタ」
7月下旬
8月5日からのフェスタに向けた企画公演。

●季刊情報誌『Dogushi夏号』発行 7月下旬

●いいだ人形劇フェスタ2014
8月5日(火)～10日(日) 飯田市内全域
特集「人形劇 北海道フェア」

●フィギュアシアターデザインコース（有料）
・第1回 8月2日(土)～4日(月)・第2回 8月12日(火)～19日(火)・第3回 9月17日(水)～29日(月)・第4回 10月～12月・第5回 12月～1月ごろ
チェコを拠点に世界で活躍する沢則行氏を講師に、舞台美術・人形美術のデザインについて学び実践する講座。完成後は参加者全員が作品をプレゼン、展示。

●「こまねこのおるすばん」上映会
8月中旬 川本人形美術館

9月

●人形アニメーションの作業場―ワークショップ（有料）
9月上旬～12月
こまどりえいが「こまねこ」やNHK「どーもくん」などを手掛けるドワーフのアニメーター・峰岸裕和氏らを講師に、本格的なこま撮りアニメーション制作に取り組む。

●ダンボールししまいワークショップ
9月上旬～10月
ダンボールで獅子の頭をつくり、舞を練習。10月19日「南信州獅子舞フェスティバル」の創作獅子舞コンクールに出場。

●秋の夜長を楽しむ人形劇公演（有料）
9月中旬
秋の夜長にじっくりと人形劇を楽しむ大人向けの公演を企画。

●人形劇実演ボランティア養成講座
9月上旬～中旬
「棒遣い(胴串指金)」の人形操作を学ぶ。

●秋の人形劇まつり（有料）
10月上旬
出演／人形劇団かじまやあ
10月11日(土)～13日(祝)
出演／フランスのパンチネラほか、一人芝居の特集公演を予定

10月

●季刊情報誌『Dogushi秋号』発行 10月下旬

●人形劇in丘のまちフェスティバル
11月3日(祝) 川本人形美術館
丘のまちフェスティバル開催にあわせ、地元のアマチュア劇団が上演。
出演／田辺「普通の生活」

11月

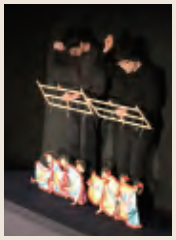
●森のぽかぽかクリスマス（有料）
12月上旬 かざこし子どもの森公園
人形劇公演、クリスマスリース&ピザづくりが楽しめるファミリー向けの企画。

●ましゅ&Keiのクリスマス会（有料）
12月下旬 川本人形美術館
ましゅ&Keiがゲストとともに繰り広げるクリスマススペシャル企画。

●初春を寿ぐ竹田人形館（有料）
1月11日(日) 竹田人形館
出演／竹田人形座竹の子会ほか

●人形劇実演ボランティア養成講座
1月上旬～中旬
「三人遣い」の人形操作を学ぶ。

●人形劇ワークショップ「人魚姫」公演（有料）
1月下旬 飯田人形劇場
2013年11月から取り組んできたワークショップの成果発表公演。



2015年 1月

●季刊情報誌『Dogushi冬号』発行 1月下旬

●いいだ人形劇まつり「りんごっこ劇場」（有料）
2月中旬 飯田女子短期大学
飯田下伊那のアマチュア劇団による公演。

●保育士人形劇研修発表会（有料）
2月中旬
飯田市公立保育園保育士による研修発表公演。

2月

●春休み人形劇場（有料）
3月下旬 飯田人形劇場
ファミリーで楽しめる作品を上演。

3月

※日程は変更になる場合があります。最新情報はお電話にてお問い合わせいただくか、いいだ人形劇センターのウェブサイトをご覧ください。

●…人形劇公演 ●…ワークショップ ●…その他

突撃!! 人形劇のゲ・ン・バ Part5

モニターの映像を見ながら「ぽぉ」の位置を少しずつ動かして1コマ1コマ撮影。これを繰り返して5〜10秒の作品を4時間ほどかけて撮影する

1/24秒のこま撮りで「ぽぉ」を動かそう

ぬいぐるみの中の綿を取り出し、成形したウレタンを中へ入れて丸みを帯びた形に整える。この時、手足が動かせるようアルミ線を装着し、背中を縫い合わせて元通りに仕立てるとこま撮り用の「ぽぉ」が完成

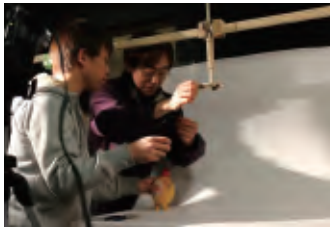
「こま撮りえいが　こまねこ」を手掛けるアニメーターの峰岸裕和さんと、カメラマンの杉木完さんが来飯し、こま撮りアニメーションのワークショップを開催する、との情報をキャッチ。さっそく〝ゲンバ〟をおさえるべく、直行しました!

「まずは撮影用の人形を作りましょう。『ぽぉ』のぬいぐるみをこま撮りができるように改造します」と、手順を説明する峰岸さん。参加者からは「改造?!」とどよめきが…。「ぽぉ」の改造が終わると、5秒ほどの作品撮影に向けてタイムシートの作成です。テーマは「散歩」。峰岸さんから1秒の映像は24コマからなるとの説明を受けました。さらに、「手足が短い『ぽぉ』を歩かせるには一歩6〜8コマ必要。動きにはメリハリをつけて」とアドバイス。

「散歩」をテーマにどのように撮影するかタイムシートを作成。最初にストーリーを考え、水たまりを飛び越える、つまずいて転ぶ、空中で一回転するなどの動作に必要なコマ数をカウントして用紙に書き込む

二日目はいよいよ川本人形美術館のスタジオで撮影開始。前日作成したタイムシートに添って進めますが思うようにいきません。峰岸さんと杉木さんのサポートを得てコマ数を増やし、カメラアングルを変えながら工夫を重ね、各自4時間ほどかけて撮影終了。完成した作品は全員で鑑賞し、峰岸さんが「ちょうどの速度で動作を表せた方、決めのポーズができて印象に残る仕上がりになった方、物語を伝えきれなかった方と皆さんそれぞれでしたが、よく頑張りました」と講評。

参加者からは「タイムシート通りにいかず難航した」「長時間の撮影があっという間だった」「人形の動かし方が分かってきたのでもう一度撮影したい」といった声が聞かれ、皆さん『ぽぉ』を片手に満足した表情で会場を後にしました。



峰岸さんから指導を受けて撮影に取り組む参加者

朧 人形たちのカーニバル

宇野小四郎【人形劇研究家】

「カーニバル・ウニマ 飯田で騒めく人形たち」

人形劇を愛する世界中の人たちは仲良くしましょう、と言ってできた人形劇の国際的組織「国際人形劇連盟」は、日本にも支部「日本ウニマ」ができて、それを束ねていたのは人形劇界の指導者として知られている川尻泰司さんだった。だから飯田のような新しい人形劇運動の局面でも、先頭に立って旗を振る筈だった。

でも初めの頃は、川尻さんは飯田の形態にはあまり賛成ではなかったと思う。僕のそばに顔を寄せて「宇野君、行政は当てにはならないですよ、と言うより必ず裏切りますよ」と断言した。僕も川尻さんのいう事はおそらく正しいと思う。行政の本質なんて言い出さないでも、人形劇の連中、市民、行政の三者の蜜月が続くなんて信じ難い。

では人形劇の祭典を持続させるカギはどこにあるかと言えば、当然市民である。人形劇の町という評価は、市民が評論的立場で客観的に下すものではない。人形劇を飯田の子どもたちのためになる文化財として認めている今の段階から、他所から配給される文化ではなく、自分たちが飯田から発信する文化だという意識になった時、人形劇の町と呼ばれるにふさわしくなるのではないかと思った。そうなるにはフェスティバルの形態を変化させるのか、実行の組織はどのようにするのか、まだまだ時間がかかりそうに思えた。

一方の川尻さんも、飯田から離れられないわけがあった。川尻さんは先の日本ウニマの会長として、世界ウニマの大会をどうしてもアジアの日本で開きたいとお考えだった。私たちはその考えに賛成し、1988年、飯田は世界大会に向けて国際デビューを果たした。

（つづく）

宇野小四郎
人形劇団ひとみ座創立メンバーで、（公財）現代人形劇センター元理事長。現在、銀の鈴舎主宰。人形劇の上演・演出・出版事業等、多岐にわたり活躍している。

Library Cafe 飯田とつながる 世界の人形劇図書資料から⑤

かこさとし「だるまちゃんとてんぐちゃん」は人形劇では競作される程の大人気だが、その数あるだるまちゃんシリーズの中の異色絵本。りんごんちゃんがだるまちゃんに「飯田りんごん」に来てください、と招待するところから始まり、電車、汽車、バスと乗り継ぎ、さらに歩いて深い山を越えようやくのことりんごんちゃんに会い、たくさんのりんごの木を抜けて、風越山の昔話人形劇を観て、みんなでりんごんを踊り、お土産にたくさんりんごをもらい「またおいなんよ。みんなまっとるでな」と見送られて帰る、のです。

飯田のりんごが主役の、他にはないユニークな絵本といえるでしょう。

（人形劇の図書館 館長・潟見英明）

かこさとし作 2003年 エツコ・ワールド発行

楽しい仲間がやってきた

人形座「あん」

「今日はよくおいでてくれたなぁ。これから人形劇を上演するで楽しんでいってな」。座長の〝多田野お米さん〟と一緒にステージに登場した、人形座「あん」の宮澤利江さん。やさしい語り口で一気に会場がなごみます。人形劇を始めて18年。一人で人形座「あん」の活動を始めて7年になります。

座長〝多田野お米さん〟と登場する人形座「あん」の宮澤利江さん

保育園や図書館、公民館、老人施設などで年間約60回もの公演を行う一方で、一昨年はチェコを拠点にする人形劇師・沢則行氏のワークショップに参加し、作品づくりに取り組みました。「今まで人形劇に対して感じていたものとは全く異なる経験ができました。他の方が作ったものの素晴らしさにも触れられ、とても刺激的でした」と宮澤さん。こうした経験をもとに作品を見直し、新たなアイデアを形にするために生かしているそう。

「目指すのは観客参加型の公演。自分本位なのだけれど、人形劇は私が楽しみたくてやっていること。だったら観てくれる人も巻き込んで楽しくしちゃおうと思ってね」。優しく微笑む表情が印象的でした。

落語の小噺を題材にした大型紙芝居は、観客の方と一緒にセリフを語りながらすすめていきます

いいだ再発見

「川本人形美術館」の巻

現在は劉備、関羽、張飛が義兄弟の盃をかわす「桃園の誓い」の場面から、劉備が孔明を軍師として迎え入れるために三回詣でた「三顧の礼」の場面を展示している3階ギャラリー

人形美術家・川本喜八郎さんが飯田市に寄贈した約200体の人形を収蔵する飯田市川本喜八郎人形美術館。NHK人形劇「三国志」や「平家物語」に登場した人形のほか、人形アニメーション用に制作された20センチほどの人形が、3階のギャラリーに展示されています。なかでも圧巻は「三国志」。NHK人形劇で使用したオリジナルの人形が収蔵されており、乱世に生きた英雄たちを演じるために生まれた人形からは、生命の鼓動が聞こえるかのよう。

毎年春と冬に展示替えされ、現在は三国志「桃園の誓い・三顧の礼」の場面と、人形アニメーション「李白」「道成寺」「火宅」などの人形が展示されています。5月31日からは平家物語「栄華、乱、流転、無常」と題して、平家一門をはじめ主な登場人物約40体を展示。本格的な人形ドラマとして好評を得た同作品が再現されます。

また、2階はだれでも気軽に利用できる交流スペースとなっており、映像ホールでは川本さんが手掛けた人形アニメーションを上映（鑑賞無料）。1コマごとに光と造形と動きによって紡ぎあげられたドラマの醍醐味は、他では味わえない魅力にあふれています。

川本喜八郎（人形美術家・アニメーション作家）

川本さんが創った人形は動くことでさまざまな表現を表し、また個性を表現するのが特徴といわれる。飯田市川本喜八郎人形美術館の館長も務めていたが平成22年8月23日（孔明と同じ命日※）85歳で他界。

※「三国志演義」に記されている話

全人協通信
専門人形劇団事情②

月に1回、芸能花伝舎1年1組はパペットシアターに

専務理事
永野むつみ

全国専門人形劇団協議会（全人協）
人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げることをめざし、1997年に発足。47劇団が加盟しています。

芸能花伝舎。もとは新宿区立淀橋第三小学校。今は様々な芸能分野の関係者が集う場。かつての教室が稽古場や事務・会議スペースとして使われています。私たち全国専門人形劇団協議会も2年4組の片隅に事務所を構えています。そして数年前から「1年1組」を「パペットシアター」とし9月から3月までの半年間、月一で様々な劇団が上演しています。主催は全国専門人形劇団協議会ですが、出演劇団が責任を持って集客します。学校・幼稚園・保育園などの依頼公演だけではなく、一般のお客様に見ていただくことも、人形劇への理解と社会的地位向上のためには大事だと考えていますが、都心新宿での公演、初めの頃参加劇団にとってはこの集客がなかなか大きな課題のようでした。

淀橋第三小学校の校舎を活用する芸能花伝舎。毎年5月になると新宿副都心の高層ビル街の中に悠々と鯉のぼりが泳ぐ

そしてここ数年は児演協（日本児童・青少年演劇劇団協同組合）の人材育成委員会批評対話プロジェクトの方々と「作品について様々な方向から語り深め合う＝批評対話」も重ねています。「この作品で何をやりたいのか、何を伝えたいのか。その思いは舞台上でどう実現しているのか」を質問形式で検証します。演出者が出演者も兼ねている場合、本番の仕上がりを客席の側から確認できず不安が残ります。率直なやりとりが作品を客観的にとらえるきっかけの一つになってほしい。

今は創り手だけで構成していますが、観客の皆さんもご参加いただき人形劇を語る場にできればいいなと念じています。

1年1組の教室を利用した「パペットシアター」

※「日本ウニマ」「全国専門人形劇団協議会」「日本人形劇人協会」が持ち回りで各団体の活動の様子、国内外の旬の話題をお届けします。